

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目次

■強化委員長就任にあたって／日本陸上競技連盟 強化委員会組織図

■2021 数字で見る陸上競技 都道府県別 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数(陸上競技)

陸上競技における日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格(陸上競技コーチ1、2、3、4)の都道府県別有資格者数(2021年10月1日付の登録者数)をお知らせします。

■活動報告

“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会報告

“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会は、45都道府県代表の小学生356名および指導者227名の計583名、その他選手団関係者565名を集め、2021年9月18日(土)、19日(日)の2日間の日程で実施いたしました。

■大会観戦ガイド

「第29回全国中学校駅伝大会」

「男子第72回全国高等学校駅伝競走大会 女子第33回全国高等学校駅伝競走大会」

「皇后盃 第40回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会」

■事務局からのお知らせ

新たな強化体制が発足、パリオリンピック・マラソン代表選考の道筋も承認—第71回理事会報告

強化委員会 シニアディレクター並びにディレクターの決定について

第2期受講生決定! ライフスキルトレーニングプログラム ~競技においてもキャリアにおいても「自分の最高を引き出す技術」を習得する~

マラソングランドチャンピオンシップ チャレンジ (MGCチャレンジ) 指定大会・MGC進出条件について

information

- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2022年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15231/>



- ・シューズ規則／広告規定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・アンチドーピング／鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・【オレゴン世界選手権】エントリースタンダード

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202108/17_171714.pdf



強化委員長就任にあたって

強化委員会 委員長 山崎一彦

この度、2021年11月10日理事会にて、東京オリンピックまでの指揮官としてご活躍された麻場一徳前委員長から引き継ぎ、強化委員長を拝命いたしました。

リオデジャネイロオリンピック終了後、2020年の東京オリンピックへ向かう強化体制は、希望に満ち溢れておりました。それが、約2年前からのCOVID-19蔓延の影響でバラ色の強化体制は一変し、競技者強化の環境は大きく変化しました。そのため、陸上競技そのものの考え方や行動の変革をしていかないと私たちコーチや競技者が従来以上の成果をあげるのももちろんのこと、陸上競技の価値は上がってこない可能性があることを痛感しました。

1年延期された東京オリンピックを終えてもおお、スポーツ界はまだまだ正常化される状況にはありません。このことは、競技者強化に投資できる資金の減少を促進しており、強化活動が制限されてしまうこともあるかと思えます。だからこそ、私たち強化に携わる者たちは、競技者およびコーチの代表という自覚を持って陸上競技の発展を促進させていく責務があると感じております。強化委員会にしかできないことを真摯に提案し、競技者やコーチの強化活動が円滑になるよう努力したいと思えます。また、競技者育成指針に基づき、育成から強化までの一環した考えを国内に周知させ、その仕組みやモデルをつくっていききたいと考えております。

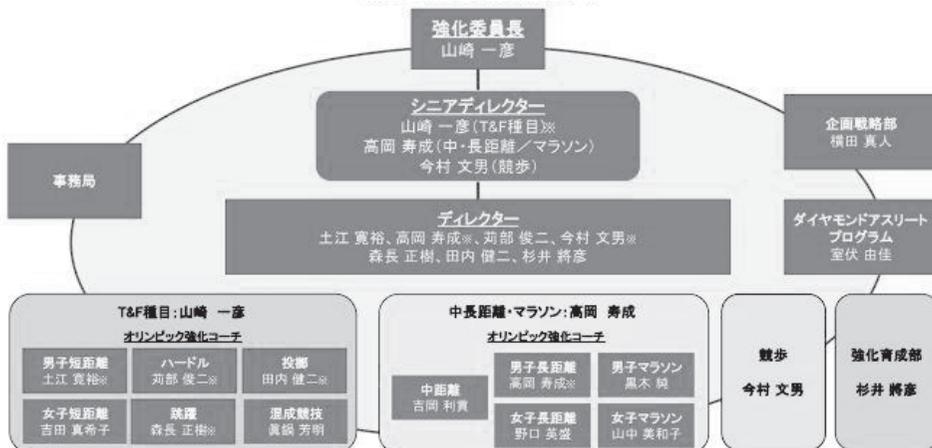
「競技者の新たな価値を高めるために」

具体的な強化に関しては、これから強化委員会コアメンバーを含めて考えていくことが多いかと思えますが、

3年後のパリオリンピックまでの時間は限られていることから、東京オリンピック入賞者以上のサポート、ターゲット世代となるU23競技者へのサポートを中核としながら、日本グランプリシリーズおよびJMC、MGC等の競技会活用と海外競技会参戦を戦略的にサポートすることによって、競技者育成を促進していくようにいたします。

これまでの強化サポートのように、競技者へ対しての直接的強化資金投与の形態では、本連盟強化のための資金は永久的に不足する仕組みとなっています。そのために、陸上競技者そのものの経済的自立や競技者としての継続的な自立を施すまでには至りません。オリンピックや世界選手権でのメダル獲得や入賞は、強化委員会としての最大目標ですが、それだけでは陸上競技全体の継続的価値は高まらないことから、競技者そのものの「能力・資質・価値」(「Ability・Capacity・Value」)を向上させていくことが重要と考えます。新たな試みとしては、強化委員会内に企画戦略部を配置し、本連盟のさまざまな部署と連携してそれらの陸上競技そのものの価値や競技者の価値を高めるために、新たな強化方法の創発を促進させていきたいと考えております。また、ダイヤモンドアスリートプログラムやライフスキルトレーニングプログラムなどに代表される育成プログラムは今後も積極的に発案および開発をしていき、競技者の付加価値を高められるようにしていきたいと考えております。

最後になりますが、2024年のパリオリンピックで日本選手が活躍する姿を毎日想像しながら強化サポート活動に努めてまいりたいと思えますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



※は兼任

2021数字で見る陸上競技

都道府県別 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数(陸上競技)

日本陸連事務局 強化部 指導者養成課

陸上競技における日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（陸上競技コーチ1、2、3、4）の都道府県別有資格者数（2021年10月1日付の登録者数）です。

日本陸連では、「指導者養成指針」に示す通り、陸上競技の指導現場に立つ全ての指導者が、公認指導者資格を取得し、継続的に学習できるよう、コーチ資格制度や養成システムの再構築、学習環境の整備を行います。

昨年（2020年）度は新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していたコーチ養成講習会の多くが中止となりました。現在は、オンライン講習等を取り入れた新しい形式で、加盟団体・協力団体の協力のもと、安全に講習会を開催しています。そして今後もより多くの指導者に参加、受講していただけるよう、学習や資格取得の場を提供していきます。

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格（陸上競技） 2021年 10月 1日付登録者数

都道府県	JSPOコーチ1	JSPOコーチ2	JSPOコーチ3	JSPOコーチ4	合計	女性指導者	
	JAAF公認ジュニアコーチ	JAAF公認コーチ				指導者数	割合 (%)
北海道	123	0	16	7	146	24	16.4
青森県	73	1	18	3	95	17	17.9
岩手県	69	0	27	7	103	20	19.4
宮城県	79	0	10	1	90	13	14.4
秋田県	45	0	13	0	58	13	22.4
山形県	100	0	18	5	123	28	22.8
福島県	119	0	30	3	152	24	15.8
茨城県	53	0	32	12	97	11	11.3
栃木県	44	0	22	4	70	6	8.6
群馬県	83	1	25	3	112	12	10.7
埼玉県	195	2	51	11	259	37	14.3
千葉県	131	3	44	7	185	21	11.4
東京都	320	3	85	21	429	85	19.8
神奈川県	185	0	26	9	220	34	15.5
新潟県	96	5	28	5	134	15	11.2
富山県	97	0	12	1	110	21	19.1
石川県	56	1	10	2	69	11	15.9
福井県	59	0	20	2	81	10	12.3
山梨県	38	11	20	4	73	7	9.6
長野県	85	2	38	5	130	20	15.4
岐阜県	56	4	16	3	79	18	22.8
静岡県	119	5	29	6	159	26	16.4
愛知県	107	0	48	4	159	24	15.1
三重県	101	1	29	4	135	25	18.5
滋賀県	49	0	28	4	81	12	14.8
京都府	72	0	34	4	110	21	19.1
大阪府	149	3	18	3	173	36	20.8
兵庫県	114	0	28	1	143	21	14.7
奈良県	36	0	17	1	54	10	18.5
和歌山県	74	0	9	2	85	11	12.9
鳥取県	39	0	8	2	49	4	8.2
島根県	28	0	7	3	38	6	15.8
岡山県	43	0	14	5	62	12	19.4
広島県	123	3	27	6	159	35	22.0
山口県	72	2	13	4	91	10	11.0
徳島県	38	1	12	1	52	12	23.1
香川県	43	0	19	3	65	13	20.0
愛媛県	40	0	22	4	66	15	22.7
高知県	35	0	15	1	51	3	5.9
福岡県	103	1	20	6	130	20	15.4
佐賀県	41	0	13	2	56	9	16.1
長崎県	52	7	15	2	76	16	21.1
熊本県	56	1	16	4	77	13	16.9
大分県	43	12	17	1	73	17	23.3
宮崎県	86	2	18	0	106	16	15.1
鹿児島県	78	0	29	1	108	21	19.4
沖縄県	36	1	2	2	41	6	14.6
計	3,883	72	1,068	191	5,214	861	16.5

“日清食品カップ” 第37回全国小学生陸上競技交流大会 報告

日本陸上競技連盟 指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会は、45都道府県代表の小学生356名および指導者227名の計583名、その他選手団関係者565名を集め、2021年9月18日（土）、19日（日）の2日間の日程で実施いたしました（新型コロナウイルス感染症の影響により2県が不参加）。横浜市の日産スタジアムを主会場とし、新横浜プリンスホテルを選手村として、当初予定より実施種目を減らし、十分な感染症予防対策を講じ、安全安心の大会運営を念頭に置いた交流大会としました。また監督会議は、9月14日（火）にオンラインで事前開催し、指導者研修会については、大会後の9月25日（土）にこちらもオンライン講習会で開催しました。“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会の概略を下記の通り報告いたします。



第1日目（9月18日・土曜日）～前日フリー練習～

1日目は、小学生の研修として、カップヌードルミュージアム 横浜（安藤百福発明記念館）の見学を実施し、競技場到着した選手団から順次フリー練習を行いました。台風14号の影響で交通機関の遅延や、選手団が現地に到着ができないなどの懸念もありましたが、なんとかすべての選手団がフリー練習終了時刻までに到着し、練習することができました。また前日練習については、雨や風の影響から安全を第一に考え、用器具を使用しての練習は取りやめとしました。

第2日目（9月19日・日曜日）

～開会式・競技会・表彰式・閉会セレモニー～

台風が去り、澄み渡る青空の下、競技会が開催されま

した。

開会式は、新型コロナウイルス感染症対策のため、入場行進などは行わずに、選手団はスタンドに着席しての参加となりました。大会は、ファンファーレ、そしてアナウンスの声とともに開会されました。主催者を代表して、公益



財団法人日本陸上競技連盟 尾縣貢会長が開会の挨拶、後援・協賛社を代表して公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団理事長、日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO安藤宏基様よりご挨拶をいただきました。続いて、選手を代表して、東京都代表の佐藤杷奈さん、横江豪さんの2名による力強い選手宣誓が行われ、スポーツ庁 室伏広治長官から、選手団に向けた励ましのメッセージをいただきました。

また、大会を主管いただく神奈川県陸上競技協会の皆様には、オリンピック・パラリンピックを行いながら同時並行で前日までの準備や当日のコロナ対策を含めた競技運営など、多大なご協力をいただいたことに感謝し、橘川眞佐志会長、松尾正弘副会長、吉田秀志副会長・専務理事をはじめ、すべての競技役員、及び補助員の方に謝意をお伝えしました。

9時30分、男子コンバインドAの走り高跳び、女子コンバインドAの80Mハードルから競技が開始されました。小学生アスリートの真剣な競技が展開され、トラックレースでは、適度な追い風と天候に恵まれて、計8名の選手が大会新記録を出しました。特にコンバインド種目は、新種目になって3年目ですが、立て続けの好記録となりました。大会の進行役として、2名のナビゲーターに参加いただきました。男子十種競技の中村明彦選手（スズキアスリートクラブ）、女子七種競技の利藤野々花選手（わらべや日洋）です。お二人には、グラウンドレ

ベルでその種目の心構えやポイントを解説し、選手たちの近くで応援したり、言葉を交わしたりなど、交流をしていただきました。選手達はトップアスリートとの突然の出会いに、初めは戸惑いながらも、次第に打ち解け、最後は直接質問をしたりアドバイスをもらっていました。

競技会の模様は、NHK Eテレで9月26日（日）14時30分から16時00分まで、録画にて放映されました。また、競技結果は、日本陸連ホームページにてご覧下さい。

各種目の表彰式ではプレゼンターとして、男子100mの山縣亮太選手（セイコー）、女子100mハードルの寺田明日香選手（ジャパングリイット）が、入賞者に賞状・メダル・楯を授与してくれました。憧れのオリンピックから表彰を受ける小学生たちはとても嬉しそうな様子でした。中村選手と利藤選手にも競技の合間にプレゼンターをしていただきました。

すべての競技と表彰式終了後には、閉会セレモニーを行いました。2019年までは、フレンドシップパーティーと称し、トップアスリートが小学生たちの目の前で、解説付きでデモンストレーションを行うなど、トップアスリートのすばらしさを肌で感じられるイベントを実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、縮小版の閉会セレモニーとなりました。4名のゲストアスリートから大会の感想や小学生へのメッセージをもらい、その後、スタンドにいる選手団に向けてトラックの外側を一周（ウイニングラン！）していただきました。アスリートたちはできる限り小学生たちの近くへと進み、スタンドの上からの写真撮影なども実現し、参加の小学生や指導者にとって、普段テレビで見ているトップアスリートとふれあい、一体感を得られ、良い思い出になったことと思います。

今回、青森県と沖縄県は全国交流大会の参加ができませんでした。この2県の選手、指導者の皆様はとても残念だったことと思います。

また、今年度“日清食品カップ”都道府県大会には、全25,095人の参加がありました。各都道府県陸上競技協会の方々が見えない努力や準備によって大会が実施できたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

都道府県大会に参加したすべての選手達が、少しでも陸上競技の魅力を感じ、興味を持ってもらえるようにと、今年度からの新しい試みとして『My record』を実施いたしました。“日清食品カップ”都道府県小学生陸上競技交流大会の全リザルト（全国交流大会実施種目）を日本陸連のホームページに掲載しています。各大会に参加した選手たちの今後の励みになることを願っています。そして、本大会をスタートラインとして、是非これからも、自分の記録に挑戦しながら陸上競技を楽しんでほしいと思います。

来年度、第38回大会は、改めて大会開催の基本理念（交

流・研修を中心に考える）を踏まえながら、「アスリート・センタード」を第一とし、指導者の皆様のご意見等を頂戴しつつ、通常開催ができるよう、考えております。関係の皆様には、今後とも本大会に対するご理解ならびにご協力をお願い申し上げます。

最後に、ご後援いただきましたスポーツ庁、横浜市、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団、公益財団法人日本スポーツ協会日本スポーツ少年団、読売新聞社、ご協賛いただきました日清食品ホールディングス株式会社、ご協力いただきましたアシックスジャパン株式会社、株式会社ニシ・スポーツ、ミズノ株式会社、会場を提供いただいた日産スタジアムをはじめ多くの関係各団体・各位に対し、心から深く感謝申し上げます。“日清食品カップ”第37回全国小学生陸上競技交流大会の報告といたします。



謝辞

本大会の開催に当たり、主管いただきました神奈川県陸上競技協会役員・競技審判員・普及部の皆様、補助員として協力頂きました関東学生陸上競技連合、神奈川大学、慶応義塾大学・日本体育大学・日本大学、桐蔭横浜大学の陸上部の学生諸君に対し、心から厚くお礼申し上げます。



大会観戦ガイド

第29回全国中学校駅伝大会

- ▼期日：令和3年12月18日（土）～19日（日）
- ▼会場：滋賀県希望が丘文化公園 スポーツゾーン芝生ランド
- ▼アクセス：〈電車・バスでお越しの方〉JR琵琶湖線 近江八幡駅より 近江鉄道バス「三井アウトレットパーク滋賀竜王行」約30分 → アウトレットから東ゲートまで徒歩約45分
〈お車でお越しの方〉西ゲート（野洲市側）より園内へお入りください。名神高速道路栗東インターチェンジより国道8号を經由して約20分
- ▼種目：(1) 単一校で編成されたチームで男子と女子の部とする。(2)男子の部〈6区間18km〉第1区 3km 第2区 3km 第3区 3km 第4区 3km 第5区 3km 第6区 3km (3)女子の部〈5区間12km〉第1区 3km 第2区 2km 第3区 2km 第4区 2km 第5区 3km
- ▼問合せ先：《大会開催前》滋賀県教育委員会保健体育課分室内 全国中学校駅伝大会 実行委員会事務局
TEL：077-535-9080 FAX：077-535-9081
E-mail：ekiden-shiga@office.eonet.ne.jp
《大会期間中》直前の14日（火）～17日（金）も含む
TEL：080-8303-7874 FAX：077-535-9081
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1586/>

男子第72回全国高等学校駅伝競走大会 女子第33回全国高等学校駅伝競走大会

- ▼期日：令和3年12月26日（日）女子：10時20分出発
男子：12時30分出発（雨天決行）
- ▼コース：男子：たけびスタジアム京都をスタート、フィニッシュとする たけびスタジアム京都付設駅伝コース（男子全国高校駅伝コース）女子：たけびスタジアム京都をスタート、フィニッシュとする たけびスタジアム京都付設駅伝コース（女子全国高校駅伝コース）
- ▼アクセス：京都市営バス「西京極運動公園前」下車 徒歩5分 阪急電車「西京極」下車 徒歩10分
- ▼区間・距離：男子 42.195km 7区間
第1区10km（たけびスタジアム京都～烏丸鞍馬口）第2区3km（烏丸鞍馬口～丸太町河原町）第3区8.1075km（丸太町河原町～国際会館前）第4区8.0875km（国際会館前～丸太町寺町）第5区3km（丸太町寺町～烏丸紫明）第6区5km（烏丸紫明～西大路下立売）第7区5km（西大路下立売～たけびスタジアム京都）

女子 21.0975km 5区間

第1区6km（たけびスタジアム京都～衣笠校前）第2区 4.0975km（衣笠校前～烏丸鞍馬口）第3区3km（烏丸鞍馬口～室町小学校前折返し～北大路船岡山）第4区3km（北大路船岡山～西大路下立売）第5区5km（西大路下立売～たけびスタジアム京都）

- ▼問合せ先：【競技に関する問合せ】京都市立西京高等学校内 全国高等学校駅伝競走大会事務局 〒604-8437 京都市中京区西ノ京東中合町1 携帯：090-3844-3398（事務局次長） FAX：075-822-5702
【その他の問合せ】毎日新聞大阪本社 事業部内 全国高等学校駅伝競走大会事務局 〒530-8251 大阪市北区梅田3-4-5 TEL：06-6346-8249 FAX：06-6346-8372

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1587/>



皇后盃 第40回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

- ▼期日：2022年1月16日（日）午後0時30分スタート（雨天決行）
- ▼コース：たけびスタジアム京都をスタート・フィニッシュとする付設駅伝コース〈9区間 42.195km〉第1区6km 第2区4km 第3区3km 第4区4km 第5区4.1075km 第6区4.0875km 第7区4km 第8区3km 第9区10km
- ▼アクセス：京都市営バス「西京極運動公園前」下車 徒歩5分 阪急電車「西京極」下車 徒歩10分
- ▼問合せ先：【大会事務局】
TEL：075-213-0367 FAX：075-241-5271（月～金曜日の10：00～17：30 土・日・祝日と年末年始は休業）
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1593/>

事務局からのお知らせ

◆◆新たな強化体制が発足、パリオリンピック・マラソン代表選考の道筋も承認—第71回理事会報告◆◆

日本陸上競技連盟は11月10日、第71回理事会をオンラインにより開催しました。新たな強化委員長の選任、パリ2024オリンピック競技大会のマラソン代表選考競技会などについて協議され、承認されました。

■強化委員長に山崎一彦さんを選任 新たな強化体制が発足

■パリオリンピックのマラソン代表は東京オリンピックと同じ「MGC方式」で選考

■ホクレンDC各大会から101万円の寄付金を受領 北海道の医療の支援に活用

▼第71回理事会報告

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15625/?category=99>

▼役員人事に関するお知らせ

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15634/?category=99>

◆◆強化委員会 シニアディレクター並びにディレクターの決定について◆◆

この度、本連盟強化委員会シニアディレクター及びディレクターが決定しましたことをお知らせいたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15627/?category=3>

◆◆第2期受講生決定！ライフスキルトレーニングプログラム

～競技においてもキャリアにおいても「自分の最高を引き出す技術」を習得する～◆◆

本連盟では、昨年度に引き続き、株式会社東京海上日動キャリアサービスのサポートのもと、日本や世界の頂点に挑み続ける陸上競技者のパフォーマンス向上とキャリア自立を両立する「ライフスキルトレーニング」を実施いたします。本プログラムではこの目的に対し賛同し、強い参加意欲のある競技者を募集いたしました。選考委員による厳正なる選考の結果、第2期プログラムの受講者が確定しましたのでお知らせいたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15632/?category=99>



◆◆マラソングランドチャンピオンシップ チャレンジ（MGCチャレンジ）指定大会・MGC進出条件について◆◆

パリ2024オリンピック競技大会マラソン日本代表選考競技会として2023年秋にマラソングランドチャンピオンシップ（以下、MGC）を開催いたします。この度、MGC進出をかけたMGCチャレンジ指定大会、及びMGC進出条件が決定いたしましたのでお知らせいたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15646/?category=1>

陸連時報編集委員

◇編集委員

尾縣 貢（陸連会長）
黄倉 寿雄（陸連副会長）
瀬古 利彦（陸連副会長）
有森 裕子（陸連副会長）
風間 明（陸連専務理事）
山崎 一彦（陸連強化委員長）
鈴木 英穂（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL：050-1746-8410
FAX：050-3588-1869